

都道府県・指定都市障害者の生涯学習推進に関する担当者連絡会

北海道における取組



北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課

障害者の生涯学習推進コンソーシアム構成事業 (令和2～4年度)

取組の成果

- ① 学校卒業後における障害者の学びの場の整備・拡充についての協議
- ② 医療法人・市町村・施設における、学習ニーズを踏まえたプログラムの開発
- ③ 全道178市町村の社会教育担当者の理解促進
- ④ 調査研究によって、今後の事業を展開する上での課題の再認識

取組の課題

- ①事業づくりや、多様な団体をつなぐ、中核的な役割を果たす**人材の養成**
- ②市町村教委や地域の**多様な団体が連携して行うモデルプログラム**の開発・普及
- ③地域住民の**理解促進と機運醸成**

教育委員会職員からの声

「専門的な知識をもつ職員が少なく、何をすべきか分からない」

「既存の事業に忙しい。実施体制もない」

「関係団体との連携体制が築けていない」

障害者の生涯学習支援体制構築モデル事業 (令和5年度～)

- ◆ 文部科学省の委託事業を受託して、
「8つの柱」を設定した取組



道内市町村の取組が広がらない現状に対応

- ◆ 今年度から開始した取組
 - ① 多様な主体による学習プログラム構築事業
 - ② 障害者の学びの支援入門講座
 - ③ 障害者の生涯学習に関する
理解促進キャラバン隊

多様な主体による学習プログラム構築事業

◆実施主体

5管内を指定 ※道立の1施設でも実施

→令和7年度までに、全14管内で実施

◆実施の枠組み

持続性を生み出すため、多様な主体が連携

→市町村教委×福祉の団体

企業×福祉の団体×社会教育施設

◆実施に当たって

スタートアップ支援学習会とセットで実施

→背景、学びの現状、合理的配慮等

多様な主体による学習プログラム構築事業

◆ 「わがまち食材をGet & Eat」

- ・ 日 時：8月29日（火）
- ・ 会 場：真狩村公民館及び隣接農地
- ・ 参 加：8名
- ・ 連携団体：真狩村教育委員会
真狩村商工会
JAようてい真狩支所
北海道真狩高等学校
真狩村社会福祉協議会
社会福祉法人北海道福心会

多様な主体による学習プログラム構築事業

・ 内容

- ① 収穫体験
- ② 調理活動
- ③ スイーツ試食会
- ④ 実食（座談会）



多様な主体による学習プログラム構築事業

◆ 実施上の留意事項

- ・ 参加者の障害種や性格等を運営者が共有
- ・ 作業時や移動時の指示の明確化
- ・ 参加者の学びや活動できる喜びを大切に
→ 「手伝う」「やってあげる」のではなく、まずは自分で挑戦してもらう

◆ 担当者から

- ・ 障害者が学ぶ機会を作る重要性を知った
- ・ 障害者への配慮を考える機会は貴重である
- ・ 地域の良さを伝える学びは、障害の有無に関わらず重要である

障害者の学びの支援入門講座

◆時期

10～11月、オンライン

◆対象

行政関係者、学校関係者、福祉・医療関係者、企業及びNPO団体職員、当事者家族

◆内容

「現代的な意義」「持続的な学びと余暇」
「ニーズを踏まえた事業実施」

◆感想

- ①当事者の話から取組の意義を再認識した
- ②社会的包摂の実現という、社会教育が果たす役割を再認識できた

障害者の生涯学習に関する

理解促進に向けたキャラバン隊

◆会場

全道5管内（R7までに全管内）

◆対象

行政および地域団体、教職員など

◆内容

行政説明、講義、演習、体験 等

◆感想

- ①本取組の背景や考え方がよく分かった
- ②専門的知識もない中で、どこから着手すべきか分からなかったが、理解が深まり、取組への意欲が高まった

実際に関わった方からの声①

「障害者の生涯学習とは、障害者のためだけに行う事業だと思っていたが、障害の有無にかかわらず、誰もが参加できる取組を増やすことが重要だと分かった」

実際に関わった方からの声②

「障害者が参加できない事業はないものの、積極的な働きかけをしてこなかったことに気付くことができた」

実際に関わった方からの声③

「重要性は分かったが、具体的にどのようなことから始めるべきか教えて欲しい」

実際に関わった方からの声④

「私のマチでは、障害者が事業に参加することや、姿を見たこと自体がほとんどないのですが…」

コンソーシアムで議論している内容

障害者の学びの体制の構築について

～社会教育施設等の受入体制のさらなる向上に向けて～

◆ 設定理由

全道各地の市町村は本取組に対する理解は深まってきたが、依然として不安を抱えているため、その不安を取り除き、お互いが歩み寄り、学びの環境を保障できるように知恵を出すために、具体例を極力示し、受入が可能な状況を整える。

(ハード面・ソフト面ともに)

コンソーシアムで出された視点

1 既存の事業や取組を再評価しアレンジする

各地の実践には、担当者が気付いていないだけで、優れた内容も多くあり、既存の取組を生かす視点も必要

2 障害の有無に関わらず、参加できる事業構成にする

障害の有無にかかわらず、誰もが参加できる事業を増やしていく

3 障害者の学びの現状を把握し、主体的な学びを保障する

障害のある方が受講者になるだけでなく、学習の企画から実施まで継続的に関わることも意義深い

コンソーシアムで出された視点

4 学びへのハードルを下げる工夫を行う

知人や支援者が一緒に参加したり、参加しやすい日時・会場等の設定が必要

5 当事者や家族の意見を生かした配慮を行う

本人や家族との“対話”を重ね、個々の場面ごとに柔軟な対応を検討して、学びの障壁を取り除くことや、学習に対する意欲を引き出す